

Interview

イベントが生む可能性は無限大 老若男女の知恵と力を生かして

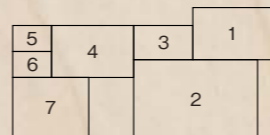
広域的な地域振興をめざして県と田川市郡が連携し、今年4月に発足した「田川広域連携プロジェクト推進会議」。行政や商工団体などの57人で組織され、地域資源を活性化にどう結び付けるか具体的な話し合いが進められています。その中の一人、福岡県立大学の永田瞬専門委員にお話を伺いました。

わ たしが調査研究している岡山県倉敷市では、商店街の一画で「三斎市」という商工会主体のイベントが行われています。一般的には何度か続けるうちに内容が固定化してしましますが、三斎市では地元の大学生も実行委員の一員として企画段階から携わり、特産品のレンコンを使ったお菓子を開発して出店するなど、若者ならではのアイデアが生かされ、成功しています。また、当日だけでなく企画から携わることで、学生と地域のかたの間に絆が生まれ、終了後もそのつながりが互いのメリットになる場合も多いようです。

イベントの多くは、その時だけ盛り上がり過ぎて後に何も残らない…という一過性のものになりがちですが、倉敷市のように老若男女を巻き込みながら、それぞれの知恵や力を出し合い、同じ目的に向かって協力し合えば、その後の地域づくりや人づくりに何倍もの効果をもたらすことが考えられます。イベントも重要な地域資源の一つ。内容ややり方次第でその可能性はさらに広がるはずなので、ぜひ効果的に生かしてほしいですね。



Shun Nagata
田川広域連携プロジェクト推進会議
専門委員
福岡県立大学人間社会学部
永田 瞬 専任講師



- 1.2.フリーアナウンサーの福留功男さんのほか、溝畑宏観光庁長官も緊急参加したチャリティウォーク
- 3.フリースタイルスキー世界選手権のモーグル会場を逆走するマラソン
- 4.ステージでの多彩なパフォーマンス
- 5.元BOOWYのドラマー・高橋まことさんをホストに2日間行ったライブには、多くのアーティストたちが集結
- 6.泉谷しげるさんのサイン会
- 7.空から美しい福島の自然を見つめた熱気球体験 (実行委員会提供)



GAMBARUZOI ふくしま 2Days in 3days

心づないだ イベントの形

東日本大震災で深刻な問題を抱えた福島県。その中で、震災1週間後にイベントを企画し、未来を模索して歩き出した人たちがいました。ここで、彼らが得た力について触れてみます。

つながり築いたイベント

「2冊の稚拙な企画書を手に動き出したのが3月末。福島県の現状を訴え、協力依頼に走り回ったところが、もう遠い昔のように感じます」と佐藤正さん。6月4日から2日間、福島県猪苗代町で開催された震災後初の大型イベント「GAMBARUZOI ふくしま 2Days in 3days」の実行委員長です。佐藤さんは、福島県の魅力にもう一度目を向けてもらおうと「ここに集うそれが何よりの応援ソング」をテーマに、このイベントを企画。佐藤さんから実行委員会が奔走した呼びかけに、県内を中心に多くの団体が手を挙げました。

未来に向け心一つに

「希望は計り知れない原動力になります。参加者の中には、つらい避難所生活を送っている人が大勢いましたが、その人たちに、励まされた」という言葉をもらった時、取り組んだわたしたちには、わずかな希望の光が見えはじめました」と佐藤さん。今回のイベントによる効果を、佐藤さんは「人や団体がまとまったこと」

福智に重なるイベント力

イベントや事業など、一つの目標に向かった取り組みが生む力は、この福智町にも着実に表れています。当初、手探り状態で進められた各団体の運営も、年々一体感が強まり、交わされた想いの数だけまとまりを生んでいます。数時間で終了するイベントも、その準備には何倍もの時間と労力が必要。当日を迎えるまでの過程にこそ意義があると言われるように、人と人とのつながりは、その日だけで終わることはありません。

佐藤正 実行委員長

イベント自粛や福島への観光旅行のキャンセルが相次ぐ中、不安の声はありましたが、今こそみんなの力を集結すべきだと思い実施に踏み切りました。

